

2025

初秋号

No.100

ほ な み

穂 濤

For WASEDA University Old Boys & Girls

発行所

早稲田大学藤沢稲門会

事務局

FAX 050-3730-7252

E-mail:w.fujisawa@
crocus.ocn.ne.jp

発行人 笹 井 修 一

穂 濤 編 集 委 員 会



W旗を中心に宝善院山門にて

次に真言宗寶善院へと向かい十一面観音像を拝観。1300年前の観音像は修復され金色に輝き眩いばかりだ。帰り際、住職夫人が「観音様の前でじっと座って見ていると微笑んでくれるんです

た。訪ねた。勸行寺では、ご本尊の日蓮上人像と早稲田大学出身の島谷晃画伯による大井画を見せて戴いた。

第33回藤稲史跡巡りの会

一行29名は、まず腰越の輪番九寺、本成寺・勸行寺・妙典寺・東漸寺・本龍寺を訪ねた。勸行寺では、ご本尊の日蓮上人像と早稲田大学出身の島谷晃画伯による大井画を見せて戴いた。

5月27日（火）史跡巡りの会が開催された。

日蓮宗霊跡本山龍口寺と
輪番八ヶ寺を片瀬・腰越に巡る

よ。」と嬉しそうに話されていたのが印象的だった。

午後は片瀬の常立寺で三十番神坐像を参拝したのち、本日のハイライト龍口寺へと向かう。刑場跡・仁王門・山門と古澤講師の解説は滞ることなく続く。土牢を覗き、大本堂の口蓮聖人像・六老僧の像等を参拝し、希望者は本堂裏手の五重の塔やバゴダを思わせる白亜の仏舍利塔も見学、本堂前に解散をした。

会に参加し解説を聞き往時に思いを馳せていると、いつもその場所に親近感を覚える。今回も輪番八ヶ寺や龍口寺について学びながら巡っているうちに、この地域に親しみが湧いてきた。当会は今回で解散するが、時には過去の資料を片手に地元の魅力を発見しながら歩くのも素敵だと思う。

幹事／木下寛子（昭51法学）

お礼と解散のご報告

当会は、平成17年（2005年）に発足し、春は小池清志氏のガイドによる鎌倉市方面の、秋は古澤忠雄氏のガイドによる藤沢市方面の史跡巡りをして来たのですが、令和7年（2025年）5月27日の第33回をもちまして、当初に企画していた目的の大半を無事に実行することが出来ました。

この間、ご参加いただきました会員の皆様は延べ971名の多きに達しました。誠に有難うございました。ここに幹事一同、皆様方に心から厚く御礼申し上げます。次第です。

そして、これをもちまして当会のスタート時の目標が無事に達成出来たという判断に立ちまして、当会を解散することに致しましたことをご報告申し上げます。

藤沢稲門会における「史跡巡り」について振り返ってみますと、発足間もない平成4年（1992年）に内海恒雄氏（歴史研究家）を案内役として、小倉正道氏が世話役となつて平成16年（2004年）までの12年間に都合23回の「史跡巡りの会」が実施されました。こ

れが第一幕でした。

この実績を消したくないということから、我々7名は「藤稲史跡巡りの会」を立ち上げて令和7年（2025年）までの20年間に多くの会員の皆様のご協力により実に33回の「史跡巡りの会」を実施するという第二幕を演じることが出来たのです。

望むらくは、次の世代の方々が集結して第三の「史跡巡りの会」を立ち上げていただき、藤沢稲門会の一層の発展と交流のため、第一幕および第二幕の実績の炎を燃やし続けていただきたいと思います。ご協力できますことは厭わず、全面的にご協力申し上げます。

会長／畠山正樹（昭39商学）

女性委員会料理教室

5月25日（日）、女性委員会の特別企画として「地中海の香りを楽しむスペシャル・クッキング」と題する料理教室が鶴沼市民センターにて開催された。

料理講師は、藤沢稲門会パートナーク会員でいらつしやる舩岡幸子さん。

メニューは「パエリア・ラタトゥイユ・スープ・サラダ・デザート」という豪華版である。

参加者は、講師も含めて総勢26名。料理教室というので女性参加



料理教室ご参加の皆様

おいしく

頂きました

穂 濤

の流れか……。しかも男性陣の手際の良いこと。玉ねぎのみじん切り、野菜の千切り、調理の段取り、後片づけなど女性陣が手を出す隙もないほどだ。

料理を食べながら何とてみると、皆さん単身赴任中に自炊したり、料理教室にかよったり、退職後は昼食を担当したりと料理をするのと食べることを楽しんでいる様子だ。



見事な包丁さばき

作り方で印象的だったのは、「パエリアをホットプレートで作る」というもの。これは簡単で時間もかからず、「目から鱗」だ。ホームパーティーにお薦めする。

主婦にとつての食事づくりは、半ば義務であり、漫然と習慣としてやっていることも多く、こうした時短、手間なし料理は大歓迎です。

男性陣の作ってくださったお料理、大変美味しゅうございました。お疲れさまでした。

多田ますみ（昭39教育・国文）

早稲田大学ゴルフ部

大学日本一への道のり

6月14日午後、藤沢市役

所会議室にて第8回藤稲懇話会が参加者32名で開催された。講師は藤沢稲門会会長で稲門ゴルフ倶楽部会長の土屋圭吾氏（昭和56教育卒）。

土屋氏は大学卒業後、大手スポーツ用品メーカーのミズノ㈱に入社、会社生活の大半をゴルフ事業に携わった。2002年在職のまま母校ゴルフ部の監督・総監督に就任、その役割を20年にわたり務めた。講演では指導者とし

ての信念や思いを語られた。

2024年6月、「第61回全国大学ゴルフ対抗戦」で早稲田大学ゴルフ部は初日から首位を守り通す完全優勝を達成、創部初の日本一となる。かつては大差をつけられていた東北福祉大、日本大を破

つての勝利だった。今や学生ゴルフ部の頂点を競えるチームとなったが、土屋氏の監督就任時には部員数は10名ほど、経験者も少なく誰がキャプテンなのかわからない状態だった。明確な目標もなく、取り組み姿勢も

今年の地引網は荒天のため中止

地 引 網

去る6月15日に予定していた地引網は数日前より降雨及び強風の予報が出され回復の見込みなく、やむを得ず事前に中止を決定しました。

本年度は、ここ数年の慣例を打破しようと行事委員会を中心にアイデアを募り、いくつかの新たな試みを取り入れました。

食事は地元の食材を活かした『藤沢宿弁当』を採用、子供たちにより一層楽しんでもらおうと久々にパン取り競争を復活、さらに新たなゲームとしておさかなビ

ngoとくじ引き抽選を組み合わせたものを考案、また昨年好評だった車椅子でも海辺を楽しめるバリアフリービーチマットも2本に増やしました。

担当ごとに準備を進めるうち、参加申込者も着実に増え219名（大人166名、小人28名、幼児25名）とここ数年で最多となりました。藤沢三田会・藤沢白門会をはじめ県下及び都内の稲門会からも多数の申し込みがありました。改めてお礼申し上げます。

来年の巻き返しにご期待ください。
小川道雄（昭55教育）

活発な意見交換が行われる

7月19日夕刻、梅雨も明け夏本番の強い日差しが残る中、藤沢市内の居酒屋「さかな家」にて、新入会員交流会が開催された。

新入会員12名と例年になく大勢の参加があった。幹事も7名が加わり、活発な意見交換が行われた。

自己紹介では、稲門会加入のきっかけだけでなく、経歴や趣味、特技、そして藤沢との縁など、さまざまな話題を語られ、一人持ち時間の2分は軽くオーバーした。その後の歓談では、当初は皆、隣同士で穏やかに語られていたが、だんだんと場の雰囲気も盛り上が



新入会員12名の参加により開催

低かった。土屋氏は「人生七変化」という言葉が示す通り部員に対し、まずは心の構えと備えを説いた。そして部員の獲得に始まり、技術・体力向上への取り組み、有力選手のリクルーティング、目標の明確化、理念や方針の設定など様々な面で改革を進めた。講演の結びでの、「指導者は情熱」、「個性主義より人格主義」という言葉は印象的だった。



土屋圭吾氏の熱い講演

氏の選手への思いや優しい人柄を感じさせる素晴らしい講演だった。（安田佳裕 記）

幹事としても、それぞれの関心や期待に加え、いただいた多くの意見をうまく稲門会活動に反映させる仕組みを工夫し、入会してよ

かったと感じられる稲門会づくりを改めて感じさせられた。まさに交流会の名にふさわしい会であった。
(安田佳裕 記)

穂濤100号発行にあたって

「穂濤」は1992年10月に藤沢稲門会の設立総会を巻頭記事として第1号が発行されました。県下では遅い発足でした。2014年から年4回の発刊となり、県下で100号を超えるものは少ないと思います。藤沢稲門会の活動が活発で記事が豊富であったことが、理由と思います。私は2016年の67号から97号まで編集長を務めました。その間高齢化に伴い、参加者が減り、複数の歴史ある同好会が終了しました。入会者は多いのですが、同好会活動等の参加者は増えていません。「穂濤」は会員の皆様に藤沢稲門会の活動状況をお知らせすることを第一義としてきました。是非紙面を見て活動参加のご検討を賜ればと存じます。2017年の発足25周年に個人情報取扱必要領を定めHPにアップしました。1号から70号をご覧いただく為のワードを記します。是非藤沢稲門会の変遷をご覧ください。

舛岡 健（昭49法学）

行事予定

■2025稲門祭

「ありがとう早稲田」

〜散じて集まる稲門の絆〜

日時・10月19日⑩

■秋の日帰りバスツアー

主催・女性委員会

日時・12月5日⑨

参加費・13800円

申込み・HPより（先着35名）

■箱根駅伝応援

日時・1月2日⑨〜3日⑩

会場・東西2会場（予定）

■第23回作品展

日時・1月6日⑩〜11日⑪

会場・藤沢市民ギャラリー

第1展示室

（ODAKYU湘南

GATE6F）

編集後記

ここ何年間もずっと夏といえは猛暑が続いている。エルニーニョ・ラニーニャ両現象が交互に繰り返しているのに暑い方にだけ偏るのは、やはり地球温暖化によるものか。

さて小生、2019年に定年退職してからずっと自宅でのさやかな趣味の園芸生活を楽しんでいる。晴れた日は屋外で雨の日は屋内で過ごすのが原則だが、猛暑が続くこの頃はもっぱら室内にいてBS放送でワールドニュースやオータニさんのMLB中継を楽しんでいる。

7月末のカムチャツカ半島付近の地震による藤沢市海岸地区への津波避難指示には驚いたが、さしたる被害無く安堵した。

出口の見えないウクライナへの侵略戦争、ガザ地区での軍事作戦展開また国際化し様々な手口に巧妙化したWEB詐欺には憤っている。

人なみにSNSやYouTubeを利用しているが、次第に利用者の好む情報ばかり増えるのには閉口している。この類からの情報は、真偽を含めて要注意だ。

（青木 康記）

編集委員長 青木 康

編集委員 高野尚志・中野正一

安田佳裕・山口金雄

山下扶佐子